

未来のための若き女性リーダー サボール・アーメッド (パキスタン)

歴史的に、パキスタンの政治は限られた一族や独裁者が支配し、その利権を保持してきました。また過去にさかのぼると、政党はその政治目標を達成するために、絶えず若者を利用してきました。しかし、パキスタンの政治において若者が果たしてきた役割は、常に限定的でした。パキスタンの若者、特に女性が代表を務めることは、明らかにほとんどありませんでした。しかし最近、パキスタン若者国会 (Youth Parliament of Pakistan: YPP) という形で希望の光が見えてきました。このことは楽観的な見方を生み、新風を吹き込みました。男女を問わず若き知識人たちが重要視されるようになり、パキスタンはついにある革命を目前に控えているように思われます。それは議会における革命であり、これが政治面のみならず他の面においても、パキスタンのあり方を変えていくかもしれません。

また、「最も偉大な指導者、建国の父」ムハンマド・アリー・ジンナーは、新たに建国したパキスタンという国家にとって若者は重要な資産であると考え、国の政治において若者が果たす役割の重要性を繰り返し強調しました。彼は、若者こそがこの国を前へと突き動かすために欠かせない推進力であると信じていました。その発言には、若者は男女ともに未来のリーダーであるという、彼の信念が反映されています。

ムハンマド・アリー・ジンナーは次のようにも述べています。「パキスタンは自国の若者、特に試練の時やいざという時に常に先頭に立って来てくれた学生たちを誇りに思っています。皆さんは明日を担うリーダーであり、前途に立ちほだかる困難に立ち向かえるように規律、教育、訓練を十分に身に付けなくてはなりません。皆さんは自らの責任の重さを自覚し、全うできるように備えなければなりません。」このメッセージを胸に、パキスタンの若者たちは政治、教育、社会事業、スポーツ、その他の分野において、指導的役割を果たすべく準備をしてきました。政治面においては、パキスタンの若者、特に女性が建国以来最も多くの代表を得ています。多くの若き女性リーダーたちが先頭に立っ



マリヤム・ナワーズ

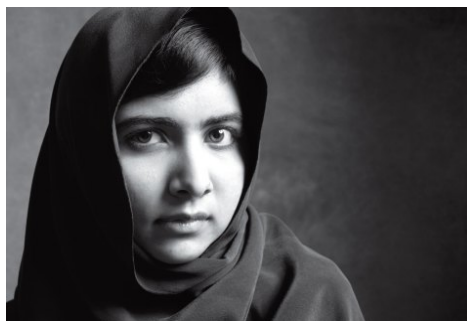


アイシャ・ワジール

て、若者を率いる責任を担っているのです。何人か例を挙げると、ナワーズ・シャリーフ首相の娘であるマリヤム・ナワーズは数年前に政界入りし、現在は青年ビジネス公的融資プログラムの委員長を務めています。ベーナズィール・ブットー元首相の二人の娘 (アシファ・ブットーおよびバフターワル・ブットー) も積極的に国政に参加することを発表しています。

さらに、連邦直轄部族地域（FATA）から女性として初めて国会議員に選出されたアイシヤ・ワジールは26歳という若さですが、自らが所属する部族、地域、州、国が長きにわたって直面してきた課題に取り組む覚悟を持っています。この他にも、この国とその若者たちを力強く精力的に率いる用意のある人が大勢います。

一方教育の分野では、16歳の学生であるマララ・ユスフザイが、過激派からの銃弾を頭に受けて自らの命を危険にさらしながらも、私たちの記憶に残る貢献をしました。彼女はその後回復し、それ以来教育推進の世界的なシンボルとなりました。マララ・ユスフザイには、その献身を称えて数多くの栄えある賞が贈られました。彼女は今でも、あらゆる人たちに対して教育に関する意識の高揚を推進することにコミットしています。



マララ・ユスフザイ

今日のパキスタンの女性は、他国のイスラム教徒の女性よりも高い地位を得ています。しかし、政府や見識者グループがパキスタン社会における女性の地位向上を試みてはいるものの、男性に対して女性の置かれた状況を見ると、おしなべて組織的な従属のジェンダー関係にあると言えます。現在では人びとの意識の高まりを受け、パキスタンの女性が教育を受ける機会が、この数年増加傾向にあります。

また、映画監督のシャーミーン・オベイド・チノイは、ドキュメンタリー映画『Saving Face』でパキスタン人女性として初めてアカデミー賞を獲得しました。彼女はこのドキュメンタリー映画において、パキスタン社会で横行している女性に対するアシッド・アタック（酸をかけること）という残虐行為を浮き彫りにすることで、社会的な問題提起に大きな貢献を果たしたのです。このアシッド・アタックは、世界的にパキスタンのイメージを汚しています。このように、彼女はパキスタン社会にはびこる社会悪にスポットを当て、社会科学者にとってのロールモデルとなったのです。このような若き女性リーダーたちの努力によって、偏見や先入観のない、ありとあらゆる人を明るく照らす夜明けがいつに近づいてきたのです。